

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1991100015 | | |
| 法人名 | 株式会社 ツクイ | | |
| 事業所名 | ツクイ都留中津森グループホーム | | |
| 所在地 | 山梨県都留市中津森1033-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年8月24日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------|--|--|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 甲府市北新1-2-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年10月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々の健康状態を考慮しながら、残存機能を落とさない様に看護師の指導の下、室内での運動を毎日わずかな時間ではあるが、職員と一緒にやっている。また自分の身の回りのことも声かけに注意しながら出来るだけ自分で出来る事は行っていただくようにしています。季節を感じられるような場所への外出や、外食なども行う様になっています。職員を含めて入居者と穏やかに生活が出来るような雰囲気づくりを心掛けております。入居者の方々の生活状況については家族来所時に、管理者・計画作成担当・フロアリーダーより出来るだけ詳細に報告をして入居者一人一人個別のアルバムを作り、退居時に家族に渡しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな住宅地にあり間近に見える山々から季節の移ろいを感じられる環境にあり、敷地内にデイサービスが併設されている。身体拘束防止委員会を持ちスピーチロックなどの職員の声かけや対応を振り返り検討している。就寝時、不穏行動のある利用者に鈴をつけた縫いぐるみをベッドに置き、行動を把握し転倒予防に繋げる工夫をしている。介護計画会議の前に全職員が専用紙に日頃の利用者の様子やケアの現状を記入し、カンファレンスやモニタリングの際に職員の意見や気づきを反映させている。このことは職員の介護現場での意識向上に繋がっている。共有フロアの一角の畳敷きスペースの炬燵は利用者が心地よく過ごし、家庭的雰囲気作りをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名 ツクイ都留中津森グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|---|--|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた町で、幸せと感じる時を大切にします。1人1人の気持ちに寄り添い、ゆとりある時間を大切にすることを大切にします。と云う理念を基に実践できるように、入居者への理解を深めるようにしています。 | 住み慣れた町で、幸せと感じる時を大切にします。1人1人の気持ちに寄り添い、ゆとりある時間を大切にすることを大切にします。と云う理念を基に実践できるように、入居者への理解を深めるようにしています。 | 理念は、玄関やフロアに掲げられ、職員、家族、来訪者が常に目にする事が出来る。毎日の昼礼で理念を確認し、毎月のカンファレンスで再度確認している。個人の尊重、利用者一人ひとりの言葉に耳を傾け気持ちに寄り添うことに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域開放イベント等を通して、地域の方たちとの交流を行ったり、ボランティアの方たちが来所している。自治会へのチラシを配布したり近隣を散歩中に積極的に挨拶をしたり話しかけたりしています。 | 地域開放イベント等を通して、地域の方たちとの交流を行ったり、ボランティアの方たちが来所している。自治会へのチラシを配布したり近隣を散歩中に積極的に挨拶をしたり話しかけたりしています。 | 自治会への参加には難しい状況で地域の活動や行事への参加は少ないが、事業所から地域にチラシなどを配布し周知に心掛けている。ボランティアの来所で歌やフラダンスを披露してもらい、交流している。 | 自治会参加は難しい状況にあるが、事業所への理解や協力課題などを地域と話し合い、地区の協力を得ながら災害対策などの検討が出来る機会を持つことを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会へのチラシやグループホーム通信に介護方法等を掲載したり、来所時に相談を受けた際アドバイスを行っています。 | 自治会へのチラシやグループホーム通信に介護方法等を掲載したり、来所時に相談を受けた際アドバイスを行っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度の運営推進会議を行っています。市町村担当者ご家族に出席して頂きご意見や思いを伺い、職員への周知をすともにもグループホーム運営に反映しています。自治会関係者については平日の開催であり中々出席して頂けていないのが現状です。 | 2か月に1度の運営推進会議を行っています。市町村担当者ご家族に出席して頂きご意見や思いを伺い、職員への周知をすともにもグループホーム運営に反映しています。自治会関係者については平日の開催であり中々出席して頂けていないのが現状です。 | 運営推進委員会は2か月に1回、平日の昼間に行われる。災害時の車イスでの避難方法について家族からの意見に対し、消防署のアドバイスや指導を受けたことの報告し、危険回避のための場所での施設実施についてなど、家族との話し合いの場となっている。議事録は委員に郵送している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 文書関係の報告を行ったり、役所にて六機不明な点での質問やアドバイス等を受けるようにしています。 | 文書関係の報告を行ったり、役所にて六機不明な点での質問やアドバイス等を受けるようにしています。 | 居室部屋の空き状況など、事業所の現状について運営の相談を行っている。CATV加入に伴う居室導入や使用料金についても相談し、指導を求めると関係構築している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を毎月開催して、身体拘束禁止についての理解を深め、日常のサービスについて振り返りを行い、身体拘束を行わない介護を実践しています。 | 身体拘束廃止委員会を毎月開催して、身体拘束禁止についての理解を深め、日常のサービスについて振り返りを行い、身体拘束を行わない介護を実践しています。 | 玄関の施錠は昼間はしていない。2階フロアの出入り口は階段での危険防止を家族と話し合い理解を得て施錠している。外出希望の利用者には職員が一緒に出掛けている。身体拘束廃止委員会を毎月開催している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止委員会と同時に委員会を開催し、虐待防止について、自施設だけではなく、近隣での虐待についても注意をする様に周知しています。 | 身体拘束廃止委員会と同時に委員会を開催し、虐待防止について、自施設だけではなく、近隣での虐待についても注意をする様に周知しています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を利用している方がいるので計画作成担当と管理者が主にかかわっていますが、制度に関しては職員に周知を図っています。 | 成年後見人制度を利用している方はおりませんが、制度の周知は行っています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時・退去時にご家族に説明を行い、理解をして頂いています。 | 契約時・退去時にご家族に説明を行い、理解をして頂いています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|---|-------------------|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口を本社と事業所に設けています。来所時にご家族より意見や要望を頂けるような関係づくりを心掛け、頂いた意見や要望については運営に反映させるようにしています。 | 苦情相談窓口を本社と事業所に設けています。来所時にご家族より意見や要望を頂けるような関係づくりを心掛け、頂いた意見や要望については運営に反映させるようにしています。 | 家族の来訪時には、会話を円滑に進め意見や要望が自由に話せるように心掛けている。来訪者の少ない利用者に配慮して面会場所を考慮している。日常用具への要望などを検討し、意見反映に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月ミーティング・カンファレンスを行い職員の意見・考えなどを積極的に出し合い、話し合いを行って反映させている。また、職員との個人面談も定期的に行って意見を聞くようにしています。 | 毎月ミーティング・カンファレンスを行い職員の意見・考えなどを積極的に出し合い、話し合いを行って反映させている。また、職員との個人面談も定期的に行って意見を聞くようにしています。 | 毎月のミーティングやカンファレンスで、シフトや役割り分担、業務に関することなどの意見や要望を聞き、ヒヤリングの際に法人より本部長が同席することもある。備品購入についても予算を検討し反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員・管理者に個々に目標を立ててもらい、フロアに掲示して、意識をする様にしています。又グループホームの本年の目標も事務所に掲げてミーティングの際に意識を高める一つの手段として唱和を行っています。 | 職員・管理者に個々に目標を立ててもらい、フロアに掲示して、意識をする様にしています。又グループホームの本年の目標も事務所に掲げてミーティングの際に意識を高める一つの手段として唱和を行っています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で年間研修計画が組まれており新人から管理者まで計画に沿って研修が行われています。事業所内でも職員に研修会の準備・進行を担当して貰い人に伝える勉強もしています。必要時、身体的な介助方法についても検討を行う様になっています。 | 法人内で年間研修計画が組まれており新人から管理者まで計画に沿って研修が行われています。事業所内でも職員に研修会の準備・進行を担当して貰い人に伝える勉強もしています。外部の研修にも積極的に希望者が参加できるようにしています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会がある。外部研修も案内を職員に回覧をし、希望者には参加できるようシフトにも配慮しています。 | 法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会がある。外部研修も案内を職員に回覧をし、希望者には参加できるようシフトにも配慮しています。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 施設内の見学時や自宅を職員が訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしています。又、入居間もない方にはちょっとした変化も見逃さない様に注意をしています。 | 施設内の見学時や自宅を職員が訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしています。又、入居間もない方にはちょっとした変化も見逃さない様に注意をしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学時や、面談時にご家族からあらゆる情報を聞くようにし、ご家族・ご本人にどんなサービスが必要なのか聞き出す様にしています。又、入居翌日にはご本人の様子を伝えるようにしています。 | 施設見学時や、面談時にご家族からあらゆる情報を聞くようにし、ご家族・ご本人にどんなサービスが必要なのか聞き出す様にしています。又、入居翌日にはご本人の様子を伝えるようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時に伺い、見極めて必要な支援を行えるようにし、自立している部分をしっかり見極め対応を行う様にしています。 | 面談時に伺い、見極めて必要な支援を行えるようにし、自立している部分をしっかり見極め対応を行う様にしています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | コミュニケーションを大切にし、一緒に生活をする中で心情の変化をくみ取り声かけを行ったり寄り添えるようにしています。 | コミュニケーションを大切にし、一緒に生活をする中で心情の変化をくみ取り声かけを行ったり寄り添えるようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会の際に日頃の様子をお話したり、対応方法についての相談も行っています。又身体状況など気付いたことがあったりご家族への訴えがご本人よりあった場合には電話連絡を行う様になっています。 | 面会の際に日頃の様子をお話したり、対応方法についての相談も行っています。又身体状況など気付いたことがあったりご家族への訴えがご本人よりあった場合には電話連絡を行う様になっています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方の面会・ご家族と馴染みの場所への外出等制限をすることはありません。 | 馴染みの方の面会・ご家族と馴染みの場所への外出等制限をすることはありません。 | 面会時間は特に設定していない。利用者のと特別外出は主に家族の対応だが、近所への散歩や外気浴などを心掛けている。買い物は利用者の楽しみであり、知り合いとの会話の機会にもなり積極的に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 馴染みの関係になれるように、自然な形でコミュニケーションをとれるように配慮したり、見守りを行いながら必要時声かけを行ったりして穏やかな関係にいられる様にしている。 | 馴染みの関係になれるように、自然な形でコミュニケーションをとれるように配慮したり、見守りを行いながら必要時声かけを行ったりして穏やかな関係にいられる様にしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された際忘れていった物を届けたり、写真も届けたりしている。 | 退去された際忘れていった物を届けたり、写真も届けたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 計画作成担当者がモニタリングを行い本人屋職員が見たり聞いたりした様子を取り上げ職員全体で把握検討している。 | 計画作成担当者がモニタリングを行い本人屋職員が見たり聞いたりした様子を取り上げ職員全体で把握検討している。 | 職員全体に利用者の状況を記入する用紙を配布し、その記録や計画作成担当者のモニタリングも行うことによって、利用者一人ひとりの希望や意向を把握し検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初回の面接時に本人とご家族に伺ったり、前任のケアマネージャーに情報を頂いたりしている。入居されてからは、コミュニケーションを取りながら、聞き出ししたりして、把握するようにしている。 | 初回の面接時に本人とご家族に伺ったり、前任のケアマネージャーに情報を頂いたりしている。入居されてからは、コミュニケーションを取りながら、聞き出ししたりして、把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | モニタリングを参考にしながら、カンファレンスで毎月職員間で意見を出し合い、把握に努めている。 | モニタリングを参考にしながら、カンファレンスで毎月職員間で意見を出し合い、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月ごとの評価の際や、必要時本人やご家族の意向、職員の意見を反映して、ケアプランを作成している。 | 3か月ごとの評価の際や、必要時本人やご家族の意向、職員の意見を反映して、ケアプランを作成している。 | 3か月毎にカンファレンスを行う。ケアマネージャーは職員が行う利用者の日常の状況の記録をモニタリングし家族の意向を反映させ介護計画を作成している。緊急時はその都度変更し、入居時は1か月で再検討する。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎月一人一人入浴時の様子とかとか食事時の様子、発した言葉等職員が気づいたことを個別の介護記録に記入し、その人らしい暮らしをするために反映させている。 | 毎月一人一人入浴時の様子とかとか食事時の様子、発した言葉等職員が気づいたことを個別の介護記録に記入し、その人らしい暮らしをするために反映させている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|---|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 今後様々なニーズに対応することを視野に入れ、敷地内のデイサービスとの連携をとれるようにしています。 | 今後様々なニーズに対応することを視野に入れ、敷地内のデイサービスとの連携をとれるようにしています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 防災訓練等で消防署の方、フラダンス、歌のボランティア等の方と交流を持ち支援している。 | 防災訓練等で消防署の方、フラダンス、歌のボランティア等の方と交流を持ち支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行いまた必要時には受診は受診に付き添い医師の指導を受けている。 | 往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行いまた必要時には受診は受診に付き添い医師の指導を受けている。 | かかりつけ医への受診は家族が行い、「介護記録」持参を希望する場合もある。緊急時は職員が対応している。職員は受診の報告を業務日誌へ記録する。事業所の協力医の往診と週2回の看護師の来所がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制を整え、看護師が定期的に健康管理にきている。バイタルチェック・内服薬に関する相談・皮膚のチェック等を行っている。また、緊急時駆けつけたり電話で指示も仰いでいます。 | 医療連携体制を整え、看護師が定期的に健康管理にきている。バイタルチェック・内服薬に関する相談・皮膚のチェック等を行っている。また、緊急時駆けつけたり電話で指示も仰いでいます。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、グループホームでの様子をサマリーで病院に渡したり、口頭でも伝えている。退院時には入院中の情報として看護サマリーを貰いその後の経過観察屋介護に役立てている。 | 入院時、グループホームでの様子をサマリーで病院に渡したり、口頭でも伝えている。退院時には入院中の情報として看護サマリーを貰いその後の経過観察屋介護に役立てている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応にかかる指針又看取りに関する指針は契約時にご家族に説明を行っている。現在は終末期の状況まで至っている入居者はおりませんが、社内的にも看取りに対する取り組みをしているので、研修などで取組について整備を行っていきます。 | 重度化した場合の対応にかかる指針又看取りに関する指針は契約時にご家族に説明を行っている。今年に入って2名の方が終末期を迎え看取りはしなかったが近い状況になった。その時の経験を活かし、今後さらに看取りに対する取り組みを行っていきます。 | 重度化した場合の対応の指針を契約時に説明している。これまで入院となり事業所での看取りはなかったが、終末期支援に際して職員へのメンタルの配慮を意識している。週2回の看護師の来所はあるが、終末期介護は地域の医師との連携が必要となることを含め、看取りの支援についての取り組みを進めていく。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修にて緊急時の対応方法については周知を行っています。全体での講習会参加が難しい為都留市消防署主催のAED研修等受講への促しを行っています。 | 研修にて緊急時の対応方法については周知を行っています。全体での講習会参加が難しい為都留市消防署主催のAED研修等受講への促しを行っています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災に関しては年2回(うち1回は夜間想定)避難訓練を行っています。その際消防署職員に避難方法についての指導をして貰っています。又災害については市の災害時要援護者カルテ等で避難時の手順について職員に周知をしています。 | 火災に関しては年2回(うち1回は夜間想定)避難訓練を行っています。その際消防署職員に避難方法についての指導をして貰っています。又災害については市の災害時要援護者カルテ等で避難時の手順について職員に周知をしています。 | 年に2回避難訓練を行っている。夜間想定訓練後、歩行出来る利用者や歩行の難しい利用者の対応方法についての課題が残り、その検討に取り組んでいる。緊急時には1階と2階の職員が協力し合う。廊下に防災頭巾とヘルメットが吊るされている。 | シフトの都合等で訓練に参加できなかった職員もいるため、訓練の回数や内容を検討し、職員一人ひとりが体験出来るよう取り組んでいくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|-------------------|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別しており、ご家族や公的機関には場合によって見せる事もある。職員の持ち出しは現金としている。個人尊重を心掛け、対応時の言葉かけ、表情にも気づいた時にその場で注意をする様になっている。 | 公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別しており、ご家族や公的機関には場合によって見せる事もある。職員の持ち出しは現金としている。個人尊重を心掛け、対応時の言葉かけ、表情にも気づいた時にその場で注意をする様になっている。 | 個人ファイルは書庫に保管され、業務ファイルはフロアの棚に整理されている。入浴やトイレにさり気ない誘導をし、聴力が衰えた利用者への声量に気遣う言葉かけに努めている。トイレでの見守りや居室への出入りにも利用者の気持ちを損ねることなく所在確認を細心の注意で対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活において、自分で判断・決定できる事案に関しては判断をゆだねています。日常、本人の思いや希望の訴えが出来るよう、信頼関係構築に心掛けています。 | 日常生活において、自分で判断・決定できる事案に関しては判断をゆだねています。日常、本人の思いや希望の訴えが出来るよう、信頼関係構築に心掛けています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分のペースで生活できるように、配慮し居室への立ち入りは必要以上に行わない様になっています。 | 自分のペースで生活できるように、配慮し居室への立ち入りは必要以上に行わない様になっています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容師が定期的に来ており、本人の希望するスタイルに出来るようにしています。又、男性については髭剃りの声掛けも行い自分で出来る方については行っていただいています。 | 訪問美容師が定期的に来ており、希望するスタイルに出来るようにしています。又日常、季節に合った衣類を着用するように思いを聞きながら声かけを行っています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付け等座っていても出来る事をして頂くようにしています。出来るだけ下膳は歩行の安定している方には行っていただくようにしています。 | 女性が多いので、座っていても出来る事(野菜のかきむき、刻む等)を行っていただくようにしています。下膳も出来る方には声かけを行っていただいています。 | 食材は業者からの配達で、事業所のキッチンで調理し、検食の職員のみ一緒に食べている。下拵えや、南瓜を煮付ける利用者がいる。季節行事のおやつを利用者と共に作っている。外食や出前食の計画もある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個別の介護記録に食事摂取量・水分摂取量を記録して把握を行っています。誤嚥しやすい方には、ゼリー状にしたり、とろみ剤を使用して摂取しやすくしています。 | 個別の介護記録に常に食事・水分の摂取量を記録して1日を通して把握を行っています。水分摂取時、むせる方にはとろみ剤を使用したり、ゼリー状にしたりして調理形態を工夫して摂取しやすくしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声かけを行い、歯磨きを行っています。歯のない方には嗽とガーゼにてふき取る等の口腔ケアを行っています。 | 毎食後の歯磨きの声掛け、誘導、確認を行っています。歯磨きが困難な方にはガーゼにて口腔ケアを行って清潔を保つ様になっています。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 15分単位で排尿排便のチェックを出来るシートを使用して一人一人の排せつのリズムを把握して誘導するようになっています。 | 15分単位で排尿排便のチェックを出来るシートを使用して一人一人の排せつのリズムを把握して誘導するようになっています。又、入居時、リハパン・パットを使用していた方の排泄のリズムを把握し布のパンツに変える事が出来た。 | 15分単位のチェック表に記入し、利用者の排泄状況を把握して声かけ誘導をしている。就寝時ポータブルトイレを使用する利用者はいるが、誘導や見守りで布パンツに変更でき、自立できた利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取量・運動量に注意しています。歩行可能な方にはフロアと廊下を歩いたり食前体操を行う様になっています。 | 水分摂取量・運動量に注意しています。歩行可能な方にはフロアと廊下を歩いたり食前体操を行う様になっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|-------------------|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日を決めずに、1、2日おきに入浴が出来るようにしています。本人の希望や、必要時には入浴して清潔にいられるようにしています。 | 曜日を決めずに、1、2日おきに入浴が出来るようにしています。入浴の際介助する職員によって拒否をする方がいますが、なるべくどの職員とも入れるような介助方法の統一も行っていきます。 | 入浴チェック表で頻度を把握している。行事の時以外は毎日入浴準備をし、利用者は週に2~3回入浴している。入浴拒否の場合は同性介護や入浴時間、声かけのタイミングや言い方を変える支援に心掛けている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 食後の休息や午睡等ご本人が思う様に出来るようにしているが、夜間の睡眠の妨げにならない様に配慮している。居室はプライベートな場として捉えむやみに立ち入らない様にしている。 | 食後の休息や午睡等ご本人が思う様に出来るようにしているが、夜間の睡眠の妨げにならない様に配慮している。居室はプライベートな場として捉えむやみに立ち入らない様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬に関する情報は随時申し送り等出職員に周知を行っている。又薬の情報についてはカンファレンス等で共有をしています。 | 薬に関する情報は随時申し送り等出職員に周知を行っている。又薬の情報についてはカンファレンス等で共有をしています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 各自出来る事を自然な形で毎日行っています。趣味活動についても、それぞれ得意なことを行っており、興味の持てる事、出来そうな事を行っていただくように働きかけています。 | 各自出来る事を自然な形で毎日行っています。趣味活動についても、それぞれ得意なことを行っており、興味の持てる事、出来そうな事を行っていただくように働きかけています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望があれば、その都度職員と外に出かけたり、買い物に出かけたり、しています。家族と一緒に出かけたり、ユニットの外出として月に1回はドライブがてら、その時期に合わせた催しなどに見学に出かけたりしています。 | 希望があれば、その都度職員が対応し、ドライブに出かけたり、買い物に出かけたりしています。家族と一緒に外出に出かける方もいます。又ユニットで夕食に出かけたり催しに見学に出かけたりもしています。 | 3~11月にかけて月に一度の外出支援を計画している。花見、葡萄狩り、ラベンダー祭りなどや買い物にも出かけている。日光浴、外気浴を兼ねて事業所の周辺を散歩している。家族との外出や外泊する利用者もいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 法人の規定により事業所には現金を置けないことになっています。本人から買い物の希望があれば、家族に承諾を得てから事業所立替え購入しています。 | 法人の規定により事業所には現金を置けないことになっています。本人から買い物の希望があれば、家族に承諾を得てから事業所立替え購入しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば、手紙を出すことも事務所の電話から家族等に電話を掛ける事・家族からの電話の取次ぎも行っていきます。 | 本人の希望があれば電話の取次ぎや手紙を投函することも代行するが、現在希望する方がいないのが現状です。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に清潔を保つようにしています。季節を感じられるよう工夫して四季を感じられるような飾りを入居者のかたと一緒に作って飾ったりしています。 | 常に清潔を保つようにしています。季節を感じられるよう工夫して四季を感じられるような飾りを入居者のかたと一緒に作って飾ったりしています。 | フロアの一角に四畳半程の小上がりの畳敷きのスペースがある。テレビで番組やDVDを見たり、冬場は炬燵で過ごす。居間と食堂はワンフロアの対面式キッチンで会話もはずみ家庭的雰囲気がある。壁には季節の飾り物があり、窓からの陽も居心地良い。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアに和室があり、冬はこたつを置きそこで何人かの入居者が過ごしたりしています。 | フロアに和室があり、気軽に横になれるようになっていきます。横になってテレビを観たり昼寝をしたりしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|-------------------|
| | | | ユニット名(竹とんぼ) | ユニット名(紙ふうせん) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時自宅で使用していたものを持ち込んで頂き、出来るだけ自宅の居室に近い居住空間を作っています。 | 入居時自宅で使用していたものを持ち込んで頂き、出来るだけ自宅の居室に近い居住空間を作っています。 | 居室の備え付けはエアコンとカーテンで、利用者の使い易いベッドや布団、テレビや家族の写真が持ち込まれ、クローゼットの中にも持参の筆筒が収納され、カーペットを敷くなど、その人らしい空間を作っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 室内全面バリアフリーとなっています。トイレ・浴室・廊下には手すりを設置し出来るだけ身体機能を生かした支援が出来るようになっています。 | 室内全面バリアフリーとなっています。トイレ・浴室・廊下には手すりを設置し出来るだけ身体機能を生かした支援が出来るようになっています。 | | |